論 文 の 内 容 の 要 旨

論文題目
「看護初回対話における看護師の関係開始コミュニケーション・スキルの研究」

学位申請者　武内　和子

キーワード：看護初回対話　関係開始コミュニケーション・スキル
マルチ・チャネル・アプローチ研究　時系列変化　沈黙場面

本論文は，看護における患者－看護師間の関係開始コミュニケーション機能が果たす役割の重要性に視座をおき，社会的ニーズに求められる看護師のコミュニケーション能力の向上に向けて，患者と看護師の初回対話における関係開始コミュニケーション・スキルが持つ役割に着眼し，内容，構造，その有用性について検討し，論じたものである．

本論文の独自性は，患者-看護師間の援助関係を成立させる要素として，関係開始コミュニケーション・スキルのマルチ・チャネル的な時系列変化，沈黙場面の対応の機能に着目したことである．今回の実証研究の方法は，模擬患者によるロールプレイング法ではあるが，実際に行われた看護師の言語・非言語行動のサンプル収集に基づく録画・録音データの分析であり，看護師のコミュニケーション研究において，これまでにあまり行われていない実験的観察法で，リアリティのある調査研究であるといえる．

本論文は 2 部の構成で仮説を論証した．第 1 部では，仮説検証の前提として必要とされる看護の関係開始コミュニケーション・スキルの臨床意義，本論文が依拠する研究方法について論じた．第 2 部では，仮説を設定し，ロールプレイング法を用いた観察調査を用いて，看護における関係開始コミュニケーション・スキルの特徴，ならびにその重要性を実証的に検証した．最後に今後の課題として，2 回目以降の対話との違い，コミュニケーション・スキルの学習方法について検討した．

各章を概略すると，序章では，厚生労働省があげる看護師の量と質の問題をあげ，本論文の問題の所在を明らかにした上で，筆者の看護コミュニケーション授業を分析して，問題提起をした．第 1 章では，看護初回対話の特徴を考察し，関係開始場面で沈黙が多い特徴から，言語要素だけでなく非言語要素，中でも沈黙場面の対応に配慮する有用性について論じた．第 2 章では，本論文が依拠する研究方法論，先行研究を概観した．観察調査の分析法として，看護の初回対話が進行段階を持つ仮定から，時間経過にそって詳細に場面を読み解く会話分析の手法を土台にして，マルチ・チャネル・アプローチ研究を選択した

理由について論じた.

第3章では，社会情勢の変化に伴う看護師のコミュニケーション・スキル向上の必要性という問題提起に基づき，関係開始場面に焦点化し，次の仮説1，仮説2を提起した.

仮説1：学生よりも看護師は，初回対話の場面で，段階的な時系列変化を表わすパターン化したコミュニケーション行動をとる.

仮説2：学生よりも看護師は，初回対話の沈黙場面で，患者のコミュニケーション行動に導かれた同調的なコミュニケーション行動を多くとる.

本論文は，いかにしたら臨床で活用できる関係開始コミュニケーション・スキルを明らかにできるかの実践性に着目し，言語・非言語要素の複数チャネルが連動して示す時系列変化，合間の沈黙場面の機能と構造の具体的な進行，行動について検証したものである.

第3章第3節で，予備調査として行った看護場面の沈黙に関する質問紙調査では，初回対話で沈黙が生じた関係開始場面の捉え方を，看護師と看護学生で比較した．その結果，学生は沈黙場面でも自分自身が話すことに関心が高い一方，看護師は患者の状況に合わせて自分の行動を方向づけている違いが明らかになった．これにより，観察調査において，コミュニケーション・スキルを複数チャネルから把握することに加え，初回対話で頻出する沈黙に着目し，沈黙場面における看護師の対応を特出する妥当性が確認された.

本調査である第4章観察調査では，ロールプレイングによる実験的観察法を実施し，分析した．その結果，看護師の発話量（回数，時間），身体動作量（回数）の非言語要素，発話内容の主張の強弱の言語要素の複合チャネルで，二谷型パターンの「メタ相補性」を構成する時系列変化を示した．看護師は複合チャネルの共変化で，発話の抑揚を明確にして，患者の発話を引き込み，話者交替の基礎を創り出していた．話者交替では合間の沈黙が次の発話を決定するとされる．看護師の沈黙場面では，学生に比し，無音後に患者が話し出す，患者に帰属する沈黙が多かった．看護師の無意味語・動作（フィラー）量は患者と同調傾向にあって，看護の中核的概念とされるケアリングの行動化の様相を呈し，患者の緊張を緩和して，患者の発話を導いた可能性が示唆された．観察調査で示された結果は，看護師に特徴的にみられており，仮説1，仮説2が帰結された.

第5章総合的考察では，仮説検証の結果に基づき，その成果を看護場面の関係開始コミュニケーション・スキルを習得するための学習モデルとして，看護初回対話プロセスの三段階モデルを作成した．今後は，関係開始コミュニケーション・スキルの学習モデルを参照軸にして，個別的に実践で模索する段階，経験を重ね自分らしいものを創造していく段階へと，学習者の経験にそった段階的な教育プログラムを検討すること，その実証的検証が課題になる.